



平成三年
(1991)
四月十五日発行
(年四回発行)

猫 養 通 信

発行人 東 明 雅
発行所 柏市つくしが丘2-2-12東明雅方
Tel. 0471-75-1192

ないものは付かぬということ

東明雅

①根を切れ、続きを言うな。
②夜店のステッキを避けよ。

③あるものは付く。ないものは付かぬ。
右の三箇条は、三十年程前、芦丈先生が私に教えて下さった、連句における「付け」の心得である。而来、私はこの三箇条を金科玉条として守り、また、私のお弟子さんたちにも教えて来た。われわれ猫養派の連句が間違った方向に走らなかつたのは、やはり、この三箇条を遵守して来たからであり、改めて師恩の有難さを痛感する次第である。

所で、最近、この第三条の「あるもの」とは何か、「ないもの」とは何かということと疑問の方があつたので、ここで改めて、そのことについて考えてみる。

まず、芦丈先生の説明から聞いてみよう。芦丈先生は、砧という季語を取り上げられる。「砧」は山本健吉氏の季寄せには、「木槌で布を打ちやわらげるに用いる木の台、またそれを打つこと。古来詩歌によく詠まれ、夜寒の侘しさの感じが付随している」と説明されている。昔の衣服は大変粗末で、かたい繊維でつくられていたから、洗濯などすると、ますます硬くなって、到底そのままでは着られなかった。だから砧というものが存在したが、今日では日本全国どこを探しても、そのような風習は残っていない。このように現代の社会には存在しないものを、季寄せにあるからと言つていかにも有るかのように連句の中に詠みこむのはまずい、と先生は言われるのである。思うに、「砧」というような語が、現代

風俗として用いられると、読者の心理に不調和から来る一種の抵抗がおこり、結局、そこで付味が悪くなり、一巻の鑑賞を妨げることになるからであろう。だから、「砧」という言葉は、連句には絶対に用いるなというわけではなく、歴史的背景のもとで使えば、別に付味が悪くなることはないし、それはそれで生きることになると思う。
雪女・座敷わらしなども現実には存在しない。しかし、これらも現実にはなくとも幻想の世界にははつきり存在する。現実には行かざりと言つてこれらもすべて否定するのは行きすぎである。要するに、そのあり得る世界で用いられればよいのである。

実戦・連句作法

二村文人

数年来非常勤講師を務めてきた短大で、連句の実作を試みている。対象は一年生六十名余。連句という呼称さえ馴染みのない、しかも多数の学生に連句実作を可能にするためにはどうしたらよいか——以下、その試行錯誤を繰り返した結果を紹介する。まず前期の授業で芭蕉の歌仙を一巻講読する。「連句入門」(東明雅著)を手がかりにおよそのルールを確認しながら、特に「付け」と「転じ」の考え方を徹底する。実作は夏休みに行う。スタイルは二十韻。十五人ずつ四つのグループに分ける。発句に手間取っては困るから脇起りにする。脇・第三・月・花・恋など各人が担当する句を予め指定し、それぞれの約束事も念を押しておく。

さて、休暇中のことなので葉書で句を回すことにする。その際最も気がかりなのは途中で停滞してしまうことである。そこで句を受け取ったら、必ず三日以内に付句を投函し——チェーン・レターの要領だ——更に私宛にもノルマを果たしたことを一報させる。全部の作品が届いたところで、多少の校合を加えて浄書し、休暇明けの授業で合評会をする。自分たちの作ったものだから、興味の示し方はありがたい芭蕉先生の比ではない。学生は共通の発句から全く異なった世界が展開することに一様に驚く。後期は、授業の終わりに短冊を配り、長句と短句を板書して、それぞれに句を付けて提出させる。出席を取ると一石二鳥というわけだ。これも次の時間までに佳作を選んで講評する。そうは言うものの、初めから皆が乗り気なわけではない。その時の私の殺し文句——全国に数ある大学の中で連句を作っているのはこの教室だけだぞ！

§ 猫養会員作品集 §

「連句 猫養作品集 Ⅰ」
(¥1500)
初めての作品集ですが、皆様力いっぱい密度の濃い作品が並んでおります。どうぞお友だちにもお奨めくださいませ。
なお、これから毎年発行予定です。

お申込は

TEL 0471-72-7549

下鉢清子

根津 美紗

連句会の前日は朝からびしゃ／＼と降り続き、夕方になってなお激しく当日になっても止まない。今度の連句会の献立は何にしようか。雨も手伝ってこれというものが浮かばない。ワンパターンだがいつものあれでい、やと落着く。買物物を済ませ調理もフル回転となる頃雨は止み日が射してくる。もう五年にもなろうか。一度も雨にも雪にも降られたことがない。力のないところを天が支えてくれているのだろうか。

いよ／＼二卓に分れる程の盛況だ。当日はアミダくじにより二卓に分ける。おこがましいが一卓は美紗が受け持つ。

さて二時十分開始。発句は俳句のうまい恵美子さん、脇はこれもベテラン澄子さん。発句と脇はよくついていると思う。学童の嬉々とした様に自分たちの子供の頃を重ねて誰もがうなづくだろう。第三で捌きは難吟苦吟に四苦八苦、原句「地球儀の海に春雲遊ぶらん」つる子。つる子さんは句会のドン。でもちょっと困った。川に海、春泥に春雲。そこで、「地球儀の島に若松かくありて」。前句に離れさせていたとき場面は少し変わったと思う。地球儀の美しい色に自然もこうありたいと願う心が第三の役目とならないだろうか。四句目、博学の友子さん。天文学では知る人ぞ知る定評のあるところである。原句旅の友は、六句めの画商を生かしたく宅配とさせていた。さてさて月の出番。ひよっとみたら余りにも丸い月が出ているではないか。月まで家の中に入れてたいという欲ばりな捌きである。六句目、代田先生の画商は是非新酒とともに生かしたかった。芭蕉の研究で有名な先生にこんな云い方でいいのだろうか。

表六句この調子で苦勞の連続。未完のまの「稚魚の巻」をご披露しよう。

学童の稚魚を放ちて卒業す

恵美子

真白な靴に春の泥んこ

澄子

地球儀の島に若松かくありて

つる子

宅配便で届くおみやげ

友子

カーテンの外に置きたる月丸し

美紗

画商を呼んで新酒振舞ふ

敬一郎

竜の玉ひそかに磨く風のあり

恵

数を数へる数のいろいろ

つ

下駄箱にメモを残して足速に

友

知らぬ顔して教壇に立つ

澄

白雲に溶けゆく噴煙遠浅間

恵

金鋼仏を守る山寺

敬

暝目の帰らざる日々夏の月

恵

合宿生の汗の洗濯

敬

使ひ捨てカメラにストロボ付いてをりつ

つ

汚職広がる谷合の村

敬

隧道の太き舗装路花霞

澄

水したたらす芹摘みの魚籠

友

味噌炊きの香にさそはれて遠巻きに

澄

署名を頼む駅の階段

敬

霊を呼ぶ女占ひアメリカへ

つ

花粉症には妙薬もなし

敬

猿山の小猿甘えて悴かめり

恵

寄せ鍋にそる海老の紅

つ

二卓でやると競争意識が働くのだろうか。どこまで進んだのか気になったり、よそのことで笑ったり、あちらも他芸多才な連衆で和気あい／＼だ。

もう少し時間があると首尾となるのだが、何せごちそうが気になるのは人の常、早く初めたくなるものだ。あちらが半歌仙終ったところでやれ／＼めでたしめでたし、いつも通り夜は更けたのである。

(三月の連句会)

A C C 連句入門(新入生座談会)

出席者 佐藤幸子 長崎和代 室谷淑子
司会 佛淵健悟

司 「ねこみの」には新人コーナーを設けています。今期は三人なので座談会形式を持ってみました。気楽にお話してください。

長崎 俳句は「万雷」で、S・60年からです。お教室の先輩滝川雅代さんがとても楽しそうに連句のお話をなさるので入門しました。

室谷 私も「万雷」でS・55年からです。滝川さんは学校の同級生で、やはり誘っていただきました。

佐藤 実は私はS・58年に一度ここへ入門しました。その頃は先生もお若くてお髪も黒々としていらっしやいました。主人の転勤で一、二回出席しただけで止め、その後俳句に入りましたが少し疲れました。連句の遊び心に郷愁を感じてまた入門しました。嬉しいです。

司 俳句が、疲れた、というのはどういうことですか。

佐藤 俳句は見つめるわけですから疲れます。連句は気楽というわけではありませんが、内面をさらけ出すということはないような気がします。

長崎 俳句は孤独な作業です。連句は和という楽しみがあります。

佐藤 俳句は云っていけないことがたくさんありますね。

長崎 俳句のそのことから解き放されても、さあといつてすぐ出句はできないわね。司 今、授業についてのお話ができましたが、いかがですか。

室谷 よくお講義をきいて、それを実作に応用すればいいのでしょうか。

司 明雅先生が、七名八体説のお講義のときちょっとしたテストをなさいましたが、いかがでしたか。

室谷 実作の座の経験がないので、七名八体の区別が分らない部分もありましたが、当たったのもありましたよ。(笑)

長崎 俳句から入ると、長句はいいのですが短句が困ります。考えるとき、最初に五文字が出てしまつて……。

佐藤 七名八体を考えて、自他場を考えると、というところがんじからめになりそうだとも思いますが、出句に対してみんなが意見を云い、自由に発言して決めるなんていうことは、句会では考えられないことです。

室谷 残念なのは、新人は一番前に座っていますから、今の句をお出しになったのはどなたかナと思つても後を向いたりできないのですよ。(笑)

司 一番前は先生に近くていいお席なんです。

室谷 よく分っています。来年度新しい方のお入りになって、後に座れるのを楽しみにしています。(笑)

長崎 全体にもう少し時間があるといいなと思います。早く考える習慣がつくかもしれません。

室谷 今使っている季寄せ(「季寄せ」山本健吉編、文芸春秋社刊)は、はつきり三季に分れていてわかり易いですね。

佐藤 私は連句と俳句は比べないほうがいいと思います。そのうちに前句にびたりと付く絶妙の付けをしたいと憧れます。

司 座になるべく多く出ることが大切でしょうね。年四回の「猫養会」にも是非ご出席ください。捌きの方がうまくリードし、連衆もいろいろ助けてくれますので、どんなチャレンジしてみてください。今日は貴重な意見ありがとうございました。

(文責 式田 和子)

捌のたわ言

本屋 良子

湘南連句会も私の家で友人をかき集め、
呱呱の声を上げてから早五年の年月を送つて
来ました。その間紆余曲折はありましたが、
何とか会員25名常時会員20名で、会場の
鎌倉駅前おうめ様の庫裡に溢れんばかりの
盛会です。会員のほとんどが文学に縁の
ない主婦ばかりで、東京から助言役の方々
にお出まじいだき、年に一度は明雅先生
の御出席も仰ぎ、又時々、猫養の先輩方
にも来ていただき、会を進めています。

毎月の作品は明雅先生のお手紙によるご
指導で、会員たちはめきめき腕を上げ、今
や数名の者が捌をさせていたゞく迄になり
ました。未熟な捌ですが、毎月、異なる連
衆と向き合つては、色々勉強の連続です。
20名近くの連衆は、腕も性格も千差万別、
超ベテランから、まだ二、三回の経験しか
ない人まで捌っていくのですから大変です。
「捌」とは良く云つたものです。昨年まで
は、馬が合う同志が一卓となり作品を作つ
ていましたが、助言役の先輩の励ましもあり、
今年からはどんな連衆をも捌ける様にし
ようと一同心に決めました。

某月の四卓の様子は――

A卓。連衆は先輩ばかり。未熟な捌は、
「あ、なるほど、はいそうですか」の一点
ばりて連衆の勢いに押され、自分の思い通
りにならない作品が出来てしまいました。
捌のたわ言「今日は先輩から、いろ／＼教
えていただき大変勉強になりました。私は
未熟で何も云えないし、又云う事もないの
ですが、校合の時、ちょっと一直したい所
もありましたが黙ってそのまゝ、作品を提
出してしまいました」こういう時は勇気を提
出して先輩にご了解いただき、一直して

も良いんですよ。

B卓。たま／＼のくじ引きで新人ばかり集
り、他の三卓より上りがずつと遅れてしま
いました。

捌のたわ言「他の卓にご迷惑かけてごめん
なさい。まだ式目を知らない方が多く、と
んでもない句が出たりして遅くなりました。
でも、自分の思い通りに進行が出来、とて
もやりやすかったです」こういう場合は、
式目をチェックする執筆役をする方を付け
た方が良かったと反省しています。

C卓。式目のチェックの厳しい方が入つて
居られました。

捌のたわ言「私は良い加減な人間で何とな
くうまく流れていく事の方が大切と思つて
いるので、途中で式目をチェックされ、ち
よつとやり難かったが、これも勉強です」
先輩からの式目チェックを聞き入れつゝ、
うまく流れていく腕前を早く身につけたい
ものと、自分たちの未熟さに地団太踏んで
居ります。

D卓。腕前は超ベテランだが、最近ご病氣
をなさつて、思うように句の出ない方が入
つて居られました。

捌のたわ言「今日は二十韻だったので、ベ
テラン先輩にゆつくり教えていただきなが
ら進行出来、自分も気持ちにゆとりが持て、
お互に相手をかばい合いながら、良い一卷
が出来たと思ひます」

まさに連句道場は人間道場でもあります。
良き指導者を得て、捌一同、人間を磨ける
場としての連句道場に日夜切磋琢磨して居
ります。連衆の方々、こんな捌の下でご協
力下さり感謝いたして居ります。

どうぞ湘南連句道場へ一人でも多くの鍛
え人のご来場をお待ちいたして居ります。

会場 鎌倉駅前おうめ様庫裡
日時 毎月第三金曜十一時半より

【新刊案内】

「新炭俵」 東明雅 著

「新炭俵」の軽み

中川 哲

明雅先生の近著「新炭俵」を掌にして、
まづ装幀の肌合ひの佳さに心が和む。編ま
れた歌仙、二十韻、配された小文の数々、
まことに見事な付け合せの美酒佳肴で、私
のような醜い人の世の騒乱にひきずりまわ
されて浮足立った毎日を送っている俗人に
とっては、快い警策の一撃であった。

「夏の日」「猫養」に次ぐ、この「新炭
俵」が、連句復興の柱となつて、混迷して
いるかに見える現代連句界の狂騒をも鎮め
てくれるのではあるまいか。風雅が、洒落
が、侘びが、軽みが、明雅先生の屹立した
美意識によつても柔かく、しかも厳しく、
私たちの心に植えつけられていくのを感じ
る。 (角川書店/2000円)

◇ 猫養会理事會報告

◎猫養同人会

平成二年十一月二十八の理事會において
決定された猫養同人会の件。主宰東明雅先
生ご推薦によつて左記の方々が同人となら
れました。顧問・東明雅。会長・秋元正江。
幹事は猫養会理事兼任。以下氏名順不同。

- 秋元正江 穴澤篤子 内田麻子 米谷貞子
坂本孝子 桜井天留子 杉内徒司 副
子 島久美子 中島啓世 中田あかり 馬場彬
風 吉澤てるよ 市野沢弘子 雑賀遊 式
田和子 杉江杉幸 山口みづゑ 大窪瑞枝
福井隆秀 高瀬美保 上月淳子 原田千町

- 中川哲 山崎一恵 下鉢清子 梅田利子
下坂元子 滝川雅代 八角澄子 若尾よし
え 金久保淑子 本屋良子 豊田好敏 篠
原達子 東郁子 小出きよみ 矢崎藍 加
藤慶二

事務局 千二二〇 東京都足立区綾瀬
4-19-17-209

TEL 03-3628-5078 (秋元方)

◎猫養会発展基金

猫養会では、年四回の猫養会、「ねこみ
の」通信の発行、会員作品集の発行等、企
画実行しております。会の発展、運営のた
め「猫養会発展基金」(一口三千元)を募
集しております。これは随時受け付けてお
りますのでよろしくお願ひ申し上げます。
次の方々の基金感謝致します。

- 中島啓世(十口) 式田和子(一口)
式田恭子(一口) 式田えい(一口)
鈴木美奈子(一口) 本屋良子(一口)
峯田政志(一口) 佛淵健悟(二口)
秋元正江(一口) 速水一雄(八千円)
東明雅、東郁子(百口) 下鉢清子(一口)

振替口座 東京3-550348
猫養同人会

平成三年四月十日、猫養同人会発足のた
めの第一回理事會(兼第三回猫養会理事會)
が持たれました。決定事項は左記の通りで
す。

◎東明雅主宰著「新炭俵」及び、会員作
品集「連句 猫養作品集 I」出版のお祝
いの会を、来る七月十七日(水)、猫養会
として持ちます。一時/六時頃迄の予定。
場所は、深川芭蕉記念館です。
◎猫養会会計監事に、豊田好敏さんが就
任されました。

〔Q〕 挙句を付ける時、発句に帰っていかような付け方もあるという説を聞いたことがありますが、私たちはそのようには習っておりませんが、これはどのように考えたらいいのでしょうか。 (倉本路子)

〔A〕 発句と挙句が照応している作品は芭蕉の作品にもあります。その例をあげてみましょう。

- 詩商人年を貪ル酒債哉 其角
- 冬湖日暮駕馬蝗 芭蕉
- 干鈍き夷に関を許すらん 同
- 三線人の鬼を泣しむ 同
- 月は袖蟋蟀眠る膝の上に 同
- 鳴の羽しげばる夜深き也 蕉
- 恥知らぬ僧を笑ふか草薄 同
- しぐれ山崎笠を舞 同
- 笹竹のどてらを藍に染なして 蕉
- 狩場の雲に若殿を恋 角
- 一の姫里の庄家に養はれ 蕉
- 軒名に立つと云題を責けり 角
- ほととぎす怨の霊と啼かへり 蕉
- うき世に泥む寒食の瘦 蕉
- 杏は花貧重し笠はさん儀 蕉
- 芭蕉あるじの蝶丁見よ 蕉
- 腐れたる俳諧犬も食はずや 蕉
- 蝶々として寝ぬ夜寝ぬ月 同
- 響入の近づくままに初砧 蕉
- 戦ひ止んで葛うらみなし 蕉
- 嘲りニ黄金ハ錆小紫 角
- 黒鯛黒しおとく女が乳 蕉
- 枯藻髪榮螺の角を巻折らん 角
- 魔神を使トス荒海の崎 蕉
- 鉄の弓取猛き世に出よ 角
- 虎懐に狂る曉 蕉
- 山寒く四睡の床を吹く嵐 角

埋ミ火消て指の灯
下司后朝をねたみ月を閉

西瓜を綾に包ムあやにく
哀いかに宮城野のぼた吹凋らん

陸奥の夷知らぬ石臼
武士の鎧の丸寝枕貸す

八声の駒の雪を告つづ
詩商人花を貪る酒債哉

春湖日暮て駕輿吟

蕉 同 角 蕉 同 蕉

この作品は、天和三年(一六八三)刊の「虚栗」という俳書に掲載され、談林俳諧から蕉風に発展する過渡期の作品です。この頃の芭蕉の作品の幾つかに、発句と挙句を照応させたものがありますが、いずれも談林の遊戯的俳諧の名残で、蕉風が確立してからの作品には、このような現象は一つもありません。発句と挙句とを照応させることは、「歌仙は三十六歩、一步も止まることなし」という輪廻を嫌う連句の根本精神に反することにもなりますので、現在では、発句にある文字も、特に挙句に使うのは避けております。

俳諧人物伝 ③

太白堂 日比野桃旭

杉内 徒司

地下鉄「後樂園」で下車、十一階のなんとかビルにある「文京区商工協会」に日比野正久専務理事をお訪ねしたのは昭和四十四年七月三十一日のことである。

正久氏は芭蕉の甥天野桃隣を一世とする太白堂十一世桃旭。父君正之氏は十世桃月、祖父正方氏は九世桃年だという。

年、月、日と付けたかったようですが、桃日はおとなしすぎるとして、私は桃旭となりました」と笑い乍ら説明して下さった。

日比野正方は旧官人、世々京都に居住していたが、明治初年東京に移り住む。陸軍教導学校一期生、同校数学教官。後大蔵省官吏。

余暇に太白堂六世江口孤月門に入り、孤月没後は八世松平吳仙に師事。吳仙没後、明治二十五年八月嗣号して九世となる。太白堂は八世までは幕臣であったが、明治御維新がこの流れを変えたのである。

桃年の長子正之は陸軍士官学校十期生、日露戦役には中尉、中隊長として従軍。遼陽の激戦に橋岡太大隊として参戦。日比野中隊長滅、日比野中隊長戦死と伝えられたが、後日誤報と判明したという逸話の主である。少佐で退官した後、世田谷区玉川に新居を建て、太白堂として昭和三十二年一月五日没するまで門人三千人の指導に当たった。

昭和十年頃、蕉風俳諧の五宗家——其角堂永湖、雪中庵二松、春秋庵庵一、芦の丸屋米華、太白堂桃月——は五葉会という親睦団体をつくっていたが、その五葉会の発起で四條侯爵を総裁として大日本俳諧連盟

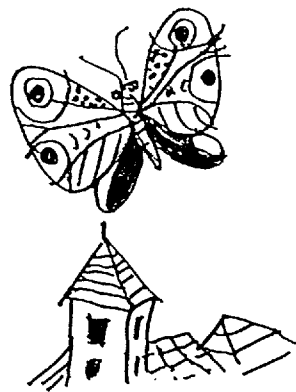
を結成、桃月は理事長として采配を振った。又現在深川の芭蕉記念館の庭園にある芭蕉像と蛙像を収むる石堂は、芭蕉二百五十回忌の昭和十八年十月十二日に十世桃月が建設奉納したと石堂背面の碑文に誌るされている。

桃旭氏は以上のような俳風の中に育ち、国学院大学を卒えて公務員となり、労働基準監督署長等を歴任されたが、終始父桃月の俳諧活動を助け、桃月没後十一世を嗣ぎ、門下生の育成につとめている等の話を伺った。

後日の第三回俳諧時雨忌(昭和四十九年九月二十三日 於 新宿厚生年金会館)にお招きした折は、野村牛耳席に着いて御助言を頂いたこともある。私は五十八年引越した先の川崎市の東北地域には太白堂系の宗匠が多いのに一驚した。蕉風五宗家で今尚活躍しているのは太白堂である。

編集部より

○ 東京の桜は雨続きでした。今日は何分咲き? とゆっくり味わう楽しみが少なく、雨が上がるといきなりの満開。要点だけ見せる、忙しい人向けの咲き方でした。
○ 御執筆の方々、年度末ご多忙の時期、玉稿お寄せいただきまして有難うございました。
○ 猫養も今年色々な行事が入っておりますが、健康第一に御健吟お祈り申し上げます。



季刊「ねこみの」通信 第三号
発行者 猫養連句会
印刷所 アトリエ・Neko